

熱帯病・新興感染症制御 グローバルリーダー育成プログラム

Program for Nurturing Global Leaders in Tropical and Emerging Communicable Diseases

世界の安全、安心に寄与する
感染症制御専門家リーダーの養成を目指して

博士課程教育リーディングプログラム

熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム

70年の感染症研究で培われた経験と実績で グローバルな視点を備えたリーダーを育成

熱帯地域を中心とした発展途上国には世界人口の8割を超える人々が生活しており、マラリア、デング熱、コレラ、トリパノゾーマ症などの熱帯特有の感染症により今なお多数の患者が発生しています。一方、国外からもたらされる新興感染症により、先進国と称される温帯に位置する国々も、重大な健康被害、経済的損失、社会不安にさらされています。これらの熱帯病・新興感染症から世界の人々を守るためには、国境を越えた協力的かつ適切な対応が必要とされます。長崎大学は、大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻に「熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム」を設置します。熱帯に蔓延する感染症と、国際的な脅威である新興感染症について幅広い知識と技術、グローバルな俯瞰力を備え、教育研究の推進と疾病制御においてリーダーシップを発揮できる国際的人材を育成します。本学は熱帯医学に特化したわが国で唯一の「熱帯医学研究所」を有し、前身である「風土病研究所」時代を含めると感染症研究分野で70年の歴史があります。世界各国の感染症研究機関との共同研究を通じて構築した国際的なネットワークをはじめ、充実したインフラ、熱帯病・新興感染症の教育と研究における優位性を活かし、グローバルな視点を備えた国際的リーダーを輩出します。



長崎大学大学院医歯薬学総合研究科



長崎大学熱帯医学研究所

長崎大学独自の海外教育研究施設で実践的な研究が可能

長崎大学はケニア共和国とベトナム社会主義共和国に大学教員が常駐する研究施設を開設し、熱帯地域における研究を先端化させるとともに、熱帯医学修士課程や国際健康開発研究科の教育・人材育成に活用してきました。平成23年には両海外拠点に駐在する教授が大学院生を指導することを可能とし、大学院生がより長期にわたり、熱帯病の流行地でフィールド研究を行うことができる体制を整備しました。長年にわたり培ってきた国際ネットワークに加えて2つの海外拠点の整備と教育の国際化を精力的に推進しており、オンリーワンを目指すにふさわしい国際的な教育研究環境が整っています。

派遣予定機関

長崎大学ケニア研究拠点(ナイロビ)、長崎大学ベトナム研究拠点(ハノイ)、世界保健機関(本部、西太平洋地域事務局、ベトナム事務所、ケニア事務所、他)、ベトナム衛生疫学研究所(ハノイ)、南アフリカ国立感染症研究所(サンドリンガム)、セントルークス医療センター(マニラ)、サンラサロ病院医療センター(マニラ)、フィリピン大学ディリマン校(ケソン)、フィリピン大学ピサヤ校(セブ)、マヒドン大学(バンコク)、タマサート大学(バンコク)、チェンマイ大学(チェンマイ)、リバプール大学熱帯医学校(リバプール)、インド防衛医学研究所(ガリオール)、ケニア中央医学研究所(ナイロビ)、ナイロビ大学(ナイロビ)、アイルランガ大学熱帯病研究所(スラバヤ)、江蘇省血吸虫病防治研究所(江蘇省)、タイ王国保健省医科学局(ノンタブリー)、シンガポール国立大学(シンガポール)、米国立衛生研究所ロッキーマウンテンラボラトリー(ハミルトン)、アントワープ熱帯医学研究所(アントワープ)



世界保健機関(本部)



南アフリカ国立感染症研究所BSL-4研究室



ケニアでフィールド調査中の大学院生

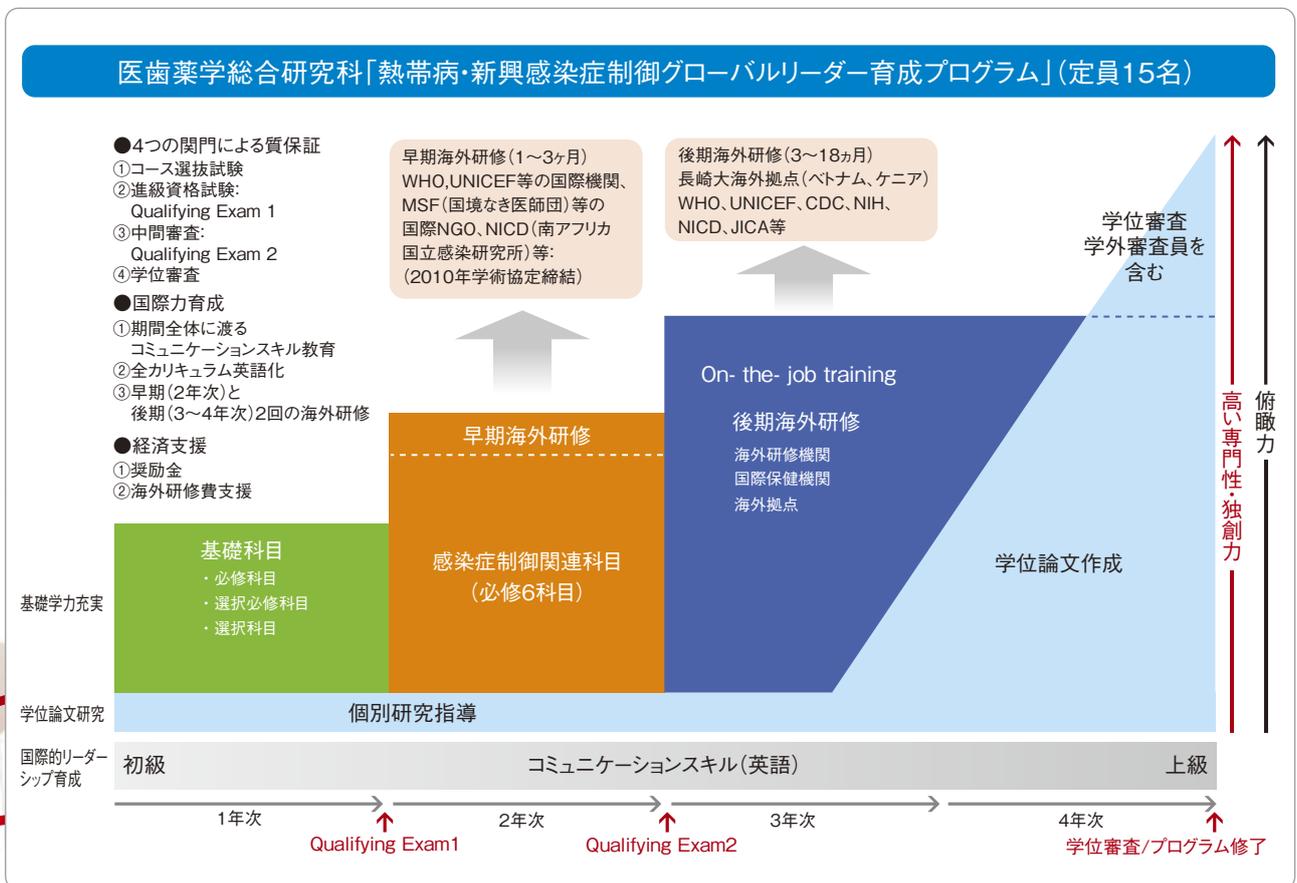


4年一貫の充実したカリキュラムで 専門性と国際性を身に付ける

4年間の大学院博士課程の教育により、グローバルな環境で活動できる専門性と国際性を身に付けた熱帯病・新興感染症制御に資する専門家を育成します。充実した教授陣による英語での横断的カリキュラムによりコミュニケーションスキル向上を図るとともに、海外拠点や国際機関等での感染症対策(On-the-job トレーニング)、インターンシップ、協力機関での病原体取扱いトレーニングなど実践的なカリキュラムも組み込んでいます。

育成プログラムカリキュラム

選抜試験対象者			
医、歯、薬学部	臨床研修医	生命科学系博士前期課程・修士課程	外国人留学生



キャリアパス支援
国際機関勤務経験者等による
メンター制度の充実

博士(医学):熱帯病・新興感染症制御プログラム修了



「熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム」の概要

グローバルな環境で活動できる専門性と国際性を身に付けた、熱帯病・新興感染症制御に対応できる専門家を育成するため、4年間の大学院博士課程の教育では次のような取組を実施します。

1. 経験豊富な教員団と第一線で活躍する専門家による教育体制

講義、実習、研修・研究は医歯薬学総合研究科教員、熱帯医学研究所教員と、国際機関等での活動経験豊かな41名の教員団(教授27名、准教授4名、助教10名)が担当します。また、世界の感染症対策において第一線で活躍する専門家をリーディング大学院非常勤講師とし、産学官にわたる教育体制が整っています。



2. 完全英語化した分野横断的なカリキュラム編成

5年前にスタートした熱帯医学修士課程において、一足早くすべての講義での完全英語化とモジュール化を完了しました。これらの実績に基づき、本プログラムでも開始初年度からスムーズな英語化教育を実施します。

3. 4年間を通じた実践的コミュニケーションスキル教育の導入

実践的な英語での発信力、リーダーシップ能力をトレーニングするために、在学中の全ての期間においてコミュニケーションスキル教育を実施。WHOなどの国際機関、JICA、外務省や国際NGOでの勤務を経験した担当教員を多数配置し、討論、ロールプレイ、ディベート等の双方向性トレーニングを通して実務的な発信、意思伝達力を養成します。

4. 入学時、1年次、2年次、卒業時—4つの関門による質保証

教育成果の質保証のシステムとして①入学試験 ②1年次終了時点で実施するQualifying Examination 1 ③2年次終了時点で実施するQualifying Examination 2 ④コミュニケーションスキル評価と博士論文—の4つの関門を設け、学生が習得した達成度が国際的なレベルで熱帯病・新興感染症制御に資するものであることを保証します。

5. 国際機関との連携による実践的専門教育の導入

国際的な実践性を備えた専門教育を実施するため、本プロジェクト教員が常駐するケニア、ベトナムの長崎大学研究拠点、WHO(本部、地域事務局、国事務所)、国際NGO、南アフリカ感染症研究所(NICD)、その他の海外研究協力機関と連携します。



6. 学生への経済的支援

定員を各学年15名として奨励金制度を設け、成績優秀な学生が学業に専念できる環境を整備します。海外研修にかかる費用についても海外研修経費支給制度を新設して学生の経済的な負担を軽減します。

7. メンター制度の充実

論文指導教員とは別に、国際機関勤務経験のあるプロジェクト教員、WHOなどの国際機関や国際NGOに所属する客員教授、教員をメンターとして、学生の精神的支援や進路指導を行います。

リーダーを養成するための体制

プログラムの内容を確実に実行し、リーダーにふさわしい資質能力の習得を保証するために、以下のように学内を挙げた指導・運営体制を整備してプログラムの推進に取り組みます。

カリキュラム指導・キャリアパス支援

プログラム担当者28名による「リーディング大学院プログラム委員会」を設置し、科目群ごとに責任者を配置しプログラムの円滑な実施を図ります。学生の設定するキャリアや研究分野に沿ったメンターをプログラム担当教員(国際機関、省庁、NGO経験者等)の中から指名して、学生のキャリアパスを支援します。国際連携研究戦略本部や産学官連携戦略本部などの学内組織、外部講師もキャリアパスの支援に加わります。

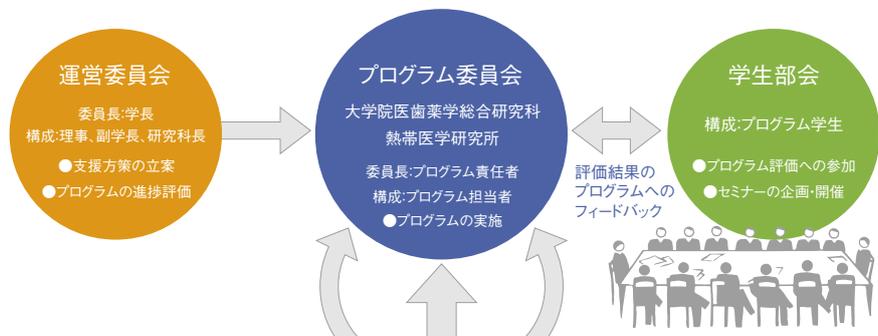
プログラム運営

学長を委員長とする「リーディング大学院運営委員会」が、プログラムの企画・運営や進捗状況の評価や推進にかかる重要事項の審議、運営方針の決定を行います。またプログラム学生で構成する学生会は「リーディングプログラム学生セミナー」を開催するほか、評価委員会のメンバーとして学生の立場からプログラムの評価を行います。

プログラムの評価体制

プログラムの実施評価については、外部の評価体制として「学術委員会」、「ステークホルダー委員会」を設置し、内部(自己)評価体制として「学生会による評価」と「プログラム委員会による評価」を行います。

外部・自己評価体制により提言された内容は、プログラム担当者で構成される「プログラム委員会」および「リーディング大学院運営委員会」に報告され、評価結果をプログラムへフィードバックしていきます。



評価システム

- 年1回、長崎での会議
- インターネットを使った定期的評価の実施
- 評価結果はホームページに公開

外部評価体制	
ステークホルダー委員会 【構成】WHO等の国際機関・産業界代表者	学術委員会 【構成】指導的な立場にある外部委員

自己評価体制	
学生会 【構成】プログラム学生	プログラム委員会 【構成】プログラム担当者および事務担当者



長崎大学長 片峰 茂

いま、人類は新たな感染症の脅威に直面しています。新しい感染症「新興感染症」の出現です。この30年でエイズ、重症呼吸器症候群（SARS）、牛海綿状脳症（BSE）、高病原性インフルエンザなど多くの感染症が新たに出現し、私たちに恐怖に陥れています。また、アジアやアフリカの途上国では寄生虫病、マラリア、下痢症など古くからある熱帯病が依然として猛威を奮い、乳幼児を中心に多くの人々が犠牲となっています。世界保健機関（WHO）はリーシュマニア症やデング熱などの熱帯感染症を特に「Neglected Tropical Diseases（NTDs; 顧みられない熱帯病）」と呼び、各国に対策への協力を呼びかけています。

長崎大学は2000年、大学院に新興感染症病態制御学系専攻博士課程を設置し、熱帯・新興感染症の教育・研究に関わる教授陣を増強して海外機関との連携を強化してきました。熱帯医学研究所が「熱帯・新興ウイルス感染症に関する」WHO研究協力センターに指定されていることに加え、ケニア共和国とベトナム社会主義共和国に本学教員が常駐する研究施設を開設するなど、アフリカ・アジアでの教育、研究インフラ整備も急速に進めています。

熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラムにおいては、本学の卓越した教育資源を活用したカリキュラム編成と充実した研究体制により、課題解決のために地球規模の視野を持ち国際的なリーダーとなりうる、実践力のある専門家人材の育成を目指します。



米国立衛生研究所ロッキーマウンテンラボラトリー（ハミルトン）



長崎大学ベトナム研究拠点（ハノイ）



熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム教員一覧 (25年4月現在) ※アルファベット順

教員名	所属・職名	専門
調 漸	理事(研究・社会貢献担当)・プログラム責任者	内科学
森田 公一	長崎大学熱帯医学研究所副所長 教授・プログラムコーディネーター	ウイルス学
西田 教行	大学院医歯薬学総合研究科 教授(新興感染症病態制御学系専攻長)・プログラムサブコーディネーター	病原微生物学
河野 茂	理事(病院担当) 大学病院長・プログラムサブコーディネーター	内科学
山本 太郎	長崎大学熱帯医学研究所 教授・プログラムサブコーディネーター	国際保健学
稲田 俊明	長崎大学言語教育研究センター長・プログラムサブコーディネーター	言語学
須齋 正幸	理事(国際・危機管理担当)	国際金融論・金融論
小林 信之	大学院医歯薬学総合研究科 教授	ウイルス学
松山 俊文	大学院医歯薬学総合研究科 教授	ウイルス学
森内 浩幸	大学院医歯薬学総合研究科 教授	小児科学
中込 治	大学院医歯薬学総合研究科 教授	分子疫学
中山 浩次	大学院医歯薬学総合研究科 教授	病原微生物学
柳原 克紀	大学院医歯薬学総合研究科 教授	感染症制御学
由井 克之	大学院医歯薬学総合研究科 教授	免疫学
有吉 紅也	長崎大学熱帯医学研究所 教授	感染症内科学
濱野 真二郎	長崎大学熱帯医学研究所 教授	寄生虫学、免疫学
橋爪 真弘	長崎大学熱帯医学研究所 教授	公衆衛生学
平山 謙二	長崎大学熱帯医学研究所 教授	免疫学
平山 壽哉	長崎大学熱帯医学研究所 教授	細菌学
一瀬 休生	長崎大学熱帯医学研究所 教授	細菌学
金子 修	長崎大学熱帯医学研究所 教授	寄生虫学、原虫病学

教員名	所属・職名	専門
Laothavorn Juntra	長崎大学熱帯医学研究所 教授	臨床開発学
皆川 昇	長崎大学熱帯医学研究所 教授	環境医学
山城 哲	長崎大学熱帯医学研究所 教授	熱帯微生物学
安田 二郎	長崎大学熱帯医学研究所 教授	ウイルス学
長谷部 太	長崎大学国際連携研究戦略本部 教授	ウイルス学
神谷 保彦	大学院国際健康開発研究科	国際保健学
Culleton Richard Leighton	熱帯医学研究所 准教授	寄生虫学

リーディングプログラム特任教員

本間 季里	大学院医歯薬学総合研究科 准教授	感染症疫学、小児科学
石川 岳志	大学院医歯薬学総合研究科 准教授	バイオインフォマティクス
Nguyen Huy Tien	熱帯医学研究所 准教授	感染症学、寄生虫学、生化学
Todd Saunders	大学院医歯薬学総合研究科 助教	地理学、疫学、生物統計学
渡邊 健	大学院医歯薬学総合研究科 助教	ウイルス学
麻田 正仁	熱帯医学研究所 助教	寄生虫学、原虫病学
Chaves Sanabria Luis Fernando	熱帯医学研究所 助教	数理生物学、生物統計学
早坂 大輔	熱帯医学研究所 助教	ウイルス学、感染症学
中村 梨沙	熱帯医学研究所 助教	免疫学
坂部 沙織	熱帯医学研究所 助教	ウイルス学
Shah Mohammad Monir	アジア・アフリカ感染症施設 助教	細菌学
竹村 太地郎	アジア・アフリカ感染症施設 助教	ウイルス学、熱帯微生物学
隈上 麻衣	言語教育研究センター 助教	応用言語学

履修科目一覧

講座等区分	授業科目	標準履修年次				講座等区分	授業科目	標準履修年次				
		1	2	3	4			1	2	3	4	
基礎科目	必修科目	疫学統計特論	○				感染症制御関連科目	国際保健学特論		○		
		ウイルス学特論	○					感染制御学特論		○		
		細菌学特論	○					感染症危機管理学特論		○		
		寄生虫学特論	○					熱帯感染症制御学特論		○		
		免疫・遺伝学特論	○					フィールド疫学特論		○		
		倫理学特論	○					リスク管理学特論		○		
		病害昆虫学特論	○					早期海外研修		○		
	選択必修科目	生物医科学特論及び実習A-1	○				後期海外研修・研究			○	○	
		生物医科学特論及び実習A-2	○				論文研究	論文研究I・II			○	○
		生物医科学特論及び実習B-1	○				コミュニケーションスキル実習	コミュニケーションスキル実習I	○			
		生物医科学特論及び実習B-2	○					コミュニケーションスキル実習II		○		
		生物医科学特論及び実習C-1	○					コミュニケーションスキル実習III			○	○
	生物医科学特論及び実習C-2	○				コミュニケーションスキル実習IV				○	○	
	選択科目	国際経済学特論	○	○								
		国際法学特論	○	○								
		組織管理学特論	○	○								
文化人類学特論		○	○									



長崎大学大学院医歯薬学総合研究科学務課
 リーディング大学院支援室
 〒852-8523 長崎県長崎市坂本 1-12-4
 Tel/095-819-7161 Fax/095-819-7168
 Email : lead_jimu@ml.nagasaki-u.ac.jp
 専用ホームページ (2013年4月1日開設予定)
<http://www.tecd.prj.nagasaki-u.ac.jp/>